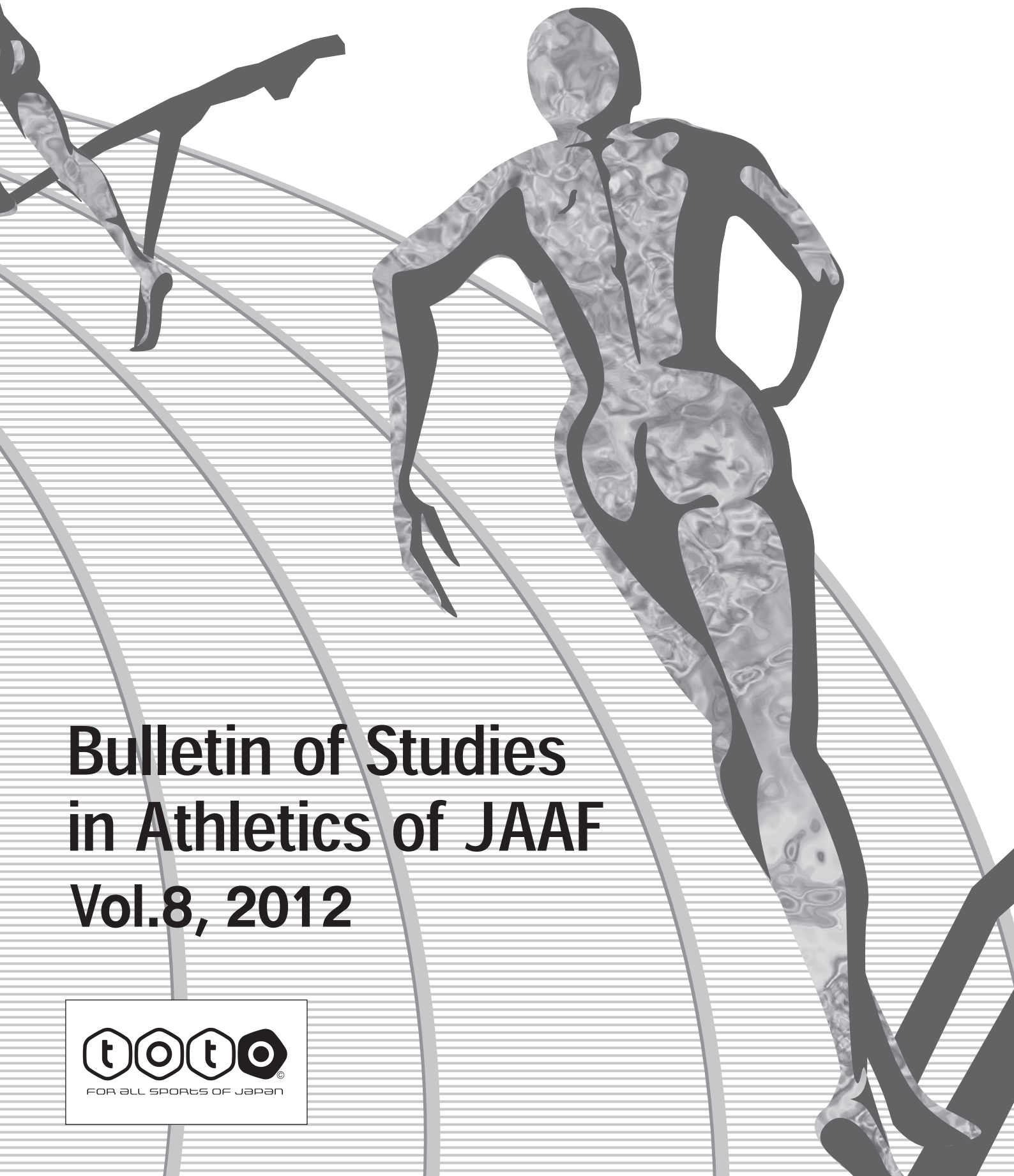


JAAF 陸上競技研究紀要

公益財団法人日本陸上競技連盟

ISSN1349-7596



**Bulletin of Studies
in Athletics of JAAF
Vol.8, 2012**



FOR ALL SPORTS OF JAPAN

「陸上競技研究紀要」

(Bulletin of Studies in Athletics of JAAF)

投稿規定

陸上競技研究紀要編集委員会

1. 投稿資格について

特に制限は設けない。

2. 投稿内容および種類について

投稿内容は陸上競技についての理論と実践に関するもので、内容に応じて、総説、原著、資料、指導法および指導記録の報告などに分類される。スタイルは和文、英文のどちらでもよい。

投稿論文には上記の投稿種別を明記し、英文のタイトル、著者、所属、総説および原著には要約（150語以内）をつける。

（注：何らかの理由で英文要約等の作成が困難な場合は、編集委員会にその旨をご相談ください）

3. 採否等について

原稿は査読を行い、査読結果をもとに採否および掲載順序の決定、校正などは編集委員会が行う。

4. 原稿の書き方について

原稿は原則として、ワードプロセッサで作成する。本文は、横42文字×縦38字で1頁とする。（1頁は約1600字、刷り上がり10頁以内、図表もその頁数に含む、すべて白黒にて作成）

英文は、A4サイズタイプ用紙を使用し、15枚以内を原則とする。

計量単位は、原則として国際単位系（m, kg, sec など）とする。

また、英文字および数字は半角とする。

5. 文献の書き方について

本文中の文献は、著者（発行年）という形式で表記する。

例）田中（1996）は —————

文献は、原則として、本文最後に著者名のABC順で記載する。書誌データの記載方法は、著者名（発行年）、論文名、誌名、巻（号）、ペー

ジの順とする。

例）吉原 礼，武田 理，小山宏之，阿江通良（2006）女子棒高跳選手の跳躍動作のバイオメカニクスの分析。陸上競技研究紀要，2：58-64.

伊藤 宏（1992）陸上競技の発育・発達。陸上競技指導教本—基礎理論編—。日本陸上競技連盟編，大修館書店，55-72.

同一著者，同発行年の文献を複数引用した場合は発行年の後に a, b, c をつける。

例）田中ら（1996 b）は，—————

6. 原稿の提出先

投稿原稿（本文，図表など）は，下記へ E-mail の添付資料として送付するとともに，プリントしたもの1部を郵送する。

〒150-8050

東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館 3階

日本陸上競技連盟

「陸上競技研究紀要」編集委員会宛

(Tel 03-3481-2300 Fax 03-3481-2449)

E-mail:kiyou@jaaf.or.jp

7. 原稿の締め切り

原稿の締め切りは特に設けず，随時受理し，査読を行う。

8. その他

本研究紀要に掲載された内容の著作権は公益財団法人日本陸上競技連盟に帰属する。

(2012年10月 改訂)

あ い さ つ

公益財団法人日本陸上競技連盟
専務理事 尾縣 貢

近代陸上競技の発祥地であるイギリスの首都・ロンドンでのオリンピックは大いなる盛り上がりを見せた。大会関係者、地元ボランティアのご尽力により歴史に残る素晴らしい大会となった。オリンピック・レガシーとしてイギリス国内はもとより、世界中で長く語り継がれることであろう。

オリンピックは、全人類のスポーツの祭典であるとともに、国の競技力を競う最高の舞台でもある。1 オリンピアド4年をかけて、競技向上を目指してきた世界中の国々が五輪旗のもと、その成果を確かめる場でもある。わが国は、銅メダル1、入賞2。大会前に掲げられたメダル1、入賞5以上という目標を達成することはできなかった。メダルテーブルによると、銅メダル1は、国別順位33位。また、1位を8点、2位を7点、そして8位を1点として、総合得点を算出すると、わが国は13点で23位となる。アテネオリンピックでは39点を獲得しており、これをそのまま今大会に当てはめると10位となる。やはり日本は10位以内を目指したい。

この目標を達成するためには、いろいろな施策が考えられるが、そのうちのひとつが医・科学の導入である。これまでも強化委員会、普及育成委員会は、医事委員会、科学委員会と強い連携を保ち、競技力の向上や陸上競技の普及発展を目指してきた。これまでの活動を基礎とし、今後は更なる取り組みを進めていく必要がある。具体的には、現場が欲する知見・情報を生み出すテーラーメイド型の研究の推進、トレーニング現場にはいり込んで行う細部への科学的サポートなどである。

このような医科学サポートを推進するうえで、本紀要が中心的な役割を果たすことを願う。また、指導者の皆様には本紀要に掲載されている研究に示されている知見を活用し、ますます指導活動を充実させていただきたい。

陸上競技研究紀要

Bulletin of Studies in Athletics of JAAF

Vol.8 2012

目 次

【原著論文】

100 mハードル走におけるハードルサイクルおよびステップごとにみた疾走速度の変化
・・・・・・・・杉本和那美・・ 1

【資料】

小学生陸上競技優秀選手の形態・体力調査
- 第27回全国小学生陸上競技交流大会入賞者を対象として -
・・・・・・・・井筒紫乃・・ 9

【日本陸連科学委員会研究報告 第11巻 (2012) 陸上競技の医科学サポート研究 REPORT2011】
・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15